

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	高難度肝胆膵外科手術を受けた患者が非自宅退院に至る要因分析
研究責任者氏名	中村 滋子
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	研究実施許可日 ～ 2027 年 12 月 31 日
研究の対象	以下に該当する患者さんを研究対象とします。
	疾患名：膵頭部癌、肝細胞癌等に対し、膵頭十二指腸切除術、肝切除術、胆道癌手術を受けられた方 診療科：肝胆膵外科
	受診日：2022 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の種類	☐ 試料等 ☒ カルテ情報 ☐ アンケート ☐ その他（ ）
	取得の方法： ☒ 診療の過程で取得 ☐ その他（ ）
研究目的・意義	肝胆膵外科領域における膵頭十二指腸切除術、肝切除術、胆道癌手術などの高難度手術は、侵襲が大きく術後合併症の発生率も高いとされ、術後の身体機能低下や日常生活活動度（Activities of daily living ; ADL）の低下が生じやすいと言われています。近年、高齢化に伴い、高難度肝胆膵外科手術を受ける高齢患者さんが増加しています。高齢の患者さんは併存疾患を保有する率も高く、また認知機能の低下や全身の機能低下（performance status 不良）などの問題を抱える場合が少なからずあります。これらのことから、手術後に自宅へ直接退院できず、回復期リハビリテーション病院や療養施設へ転院する「非自宅退院」となるケースが増加しています。非自宅退院は患者さんの生活の質（QOL）や社会復帰に大きな影響を及ぼすだけでなく、医療資源の利用や入院期間の延長にも関係する重要なアウトカムと言われています。これまで、高難度肝胆膵外科手術において、術後早期回復プログラム（ERAS program）の導入や周術期リハビリテーションの施行により、早期退院や早期社会復帰の試みが行われてきました。しかし、どのような背景要因や周術期

	因子、看護ケア要因が非自宅退院に関連するかについての報告は十分ではありません。そこで、本研究では兵庫医科大学病院における肝胆膵外科領域の高難度手術を受けた患者さんのうち、非自宅退院になった患者さんの背景要因を明らかにすることで、今後、同手術を行う患者さんの周術期管理においてより良い看護ケアの提供ができることをめざしたいと考えています。高難度肝胆膵外科手術後の非自宅退院に関連する因子を明らかにすることで、術前からのリスク評価や看護介入の最適化、退院支援の早期介入等に寄与することを期待しています。
研究の方法	2023 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日の 3 年間に肝胆膵外科で膵頭十二指腸切除術や肝切除術、胆道癌手術等の高難度肝胆膵手術を受けた患者さんの 2022 年 1 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの情報を電子カルテより抽出し、得られたデータについて統計学的解析を行います。 調査項目は下記の通りです。 ① 年齢、性別、身長、体重、BMI、疾患、術式、既往歴、術前化学療法実施の有無・期間、認知機能、看護必要度 ② 家族背景、生活スタイル（入院前の生活場所）、 ③ 術前検査：アルブミン値、プレアルブミン値、膵管拡張の有無、胆管炎の有無（胆道ドレナージ施行の有無）、腎機能、腫瘍マーカー ④ 手術時間、術中出血量、術後合併症（せん妄、誤嚥性肺炎、イレウスなどの消化管疾患） ⑤ 退院先（一般病院、リハビリ病院、療養病院、施設）
個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
本研究に関する連絡先	診療科名等：看護部/肝胆膵外科 担当者氏名：中村 滋子 [電話] （平日 9：00～17：00）0798－45－6582 （上記時間以外） 0798－45－6111（病院代表）